

令和6年度 北信越高等学校体育大会
第65回北信越高等学校柔道大会
実施要項

主催 北信越高等学校体育連盟
共催 富山県教育委員会・(公財)富山県スポーツ協会・富山県柔道連盟
後援 北信越柔道連盟
主管 富山県高等学校体育連盟・富山県高等学校体育連盟柔道専門部

1 期 日 令和6年6月15日(土)～16日(日)
(1)開会式 令和6年6月14日(金) 15:00～
(2)競技 令和6年6月15日(土)・16日(日) 9:00～(2日間)
(3)団体戦表彰式 令和6年6月15日(土) 団体試合終了後
(4)閉会式 令和6年6月16日(日) 競技終了後

2 会 場 アルビス小杉総合体育センター
〒939-0351 富山県射水市戸破3111 Tel 0766-55-3000

3 大会日程

令和6年6月14日(金)	各種受付	12:30～13:20
	計量	12:40～13:30
	専門委員長会議	13:25～13:50
	審判監督会議	14:00～14:50
	開会式	15:00～16:00
令和6年6月15日(土)	男女団体試合(決勝まで)	9:00～
	男女団体試合表彰式	
	男女個人試合(2回戦まで)	
令和6年6月16日(日)	男女個人試合(決勝まで)	9:00～
	閉会式	

4 競技規則

- (1) 国際柔道連盟試合審判規定ならびに全国高体連柔道大会競技運営申し合わせ事項及び北信越高体連団体試合方法申し合わせ事項によって行う。
- (2) 「優勢勝ち」の判定基準
 - ア 団体試合は「技あり」又は「僅差」(「指導」差2)以上とする。チームの内容が同等の場合は、代表選手を任意に選出して代表戦を行う。代表戦で得点差がない場合は、ゴールデンスコア方式の延長戦を行う。延長戦では「技あり」以上の得点があった時点、又は「指導」の数に差が出た時点で試合終了とする。
 - イ 個人試合は「技あり」又は「僅差」(「指導」差2)以上とする。試合終了時に得点差がない場合はゴールデンスコア方式の延長戦を行う。延長戦は「技あり」以上の得点があった時点、又は、「指導」の数に差が出た時点で試合終了とする。
- (3) 試合時間
 - ① 試合時間は、団体試合・個人試合ともにすべて3分とする。
 - ② 個人試合における同一試合者の次試合までの間隔は、最低3分間は確保できるものとする。
- (4) 審判方法
 - ① 審判は、主審1人、副審2人の3審制でおこない、各試合場に1人または2人の審判委員(ジュリー)を配置する。
 - ② (ケアシステムの使用) 団体試合ならびに個人試合の全ての試合においては、審判委員(ジュリー)が試合場での決定とそれを補助するためにケアシステムを使用して確認する。その際に、技・反則における判定の訂正もあえる。

5 競技・試合方法

- (1) 団体試合(男子・女子：点取り試合)
 - ① 試合は、トーナメント戦とする。3位決定戦は行わない。
 - ② トーナメント戦の勝敗の決定は、次のとおりとする。

ア 判定基準

* 「選手 対 選手」のそれぞれの試合の勝敗は、「技あり」、または「僅差」以上とする。

* 「僅差」は、「指導差2」とする。

イ 「技の内容」と「指導」の重み

* 【一本勝ち=反則勝ち】> 「技あり」> 「僅 差」の順とする。

ウ 団体試合の「チーム 対 チーム」の勝敗の決定

以下の項目にしたがって勝敗を決定する。

(a) 「勝ち数の多いチーム」を勝ちとする。

(b) (a) で同等の場合は、「一本」による勝ちの多いチームを勝ちとする。

* 但し、一本勝ちと反則勝ちは同等とする。

(c) (b) で同等の場合は、「技ありによる勝ち」の多いチームを勝ちとする。

(d) (c) で同等の場合は、代表戦をおこなう。

代表戦は、その対戦に出場した選手の中から任意に選出して行う。

(e) 代表戦で、「指導」の累積により両者「反則負け」となった場合には、スコアをリセットし、ゴールデンスコア方式の延長戦を行い、勝敗を決する。延長戦で、「指導」の累積により両者反則負けとなった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を行い、必ず勝敗を決する。このことは、1回戦から決勝戦までのすべての試合に適用する。

(2) 個人試合(男子・女子)

① 体重別試合とする。

② 試合は、トーナメント戦とする。3位決定戦は行わない。

* 指導の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットし、ゴールデンスコア方式の延長戦において、勝敗を決する。延長戦で、「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を行い、必ず勝敗を決する。このことは、1回戦から決勝戦までのすべての試合に適用する。

6 参加資格

(1) 選手は、学校教育法第1条に規定する高等学校（中等教育学校後期課程を含む）に在籍する生徒であること。但し、休学中、留学中の生徒を除く。

(2) 選手は、北信越5県各高等学校体育連盟に加盟している学校の生徒で、当該競技の大会要項により大会参加資格を得たものに限る。

(3) 年齢は、平成17年（2005年）4月2日以降に生まれたものとする。ただし、出場は同一競技3回までとし、同一学年での出場は1回限りとする。

① 「出場」とは登録やエントリーではなく、試合への出場回数をさし、専門部が責任をもって調整・確認する。

* ベンチに入ることは「出場」とみなす。

② 大会参加資格を満たし、日程等が重ならない場合は複数競技への参加を認める。

(4) チーム編成において、全日制課程、定時制課程、通信制課程の生徒による混成は認めない。

(5) 以下の場合に限り、複数校合同チームの大会参加を認める。

ア. 部員不足に伴う合同チーム

(都道府県高等学校体育連盟会長により予選会から参加が認められた場合)

詳細は、全国高体連が定める「部員不足に伴う複数校合同チーム参加規程」と専門部が定める「競技別部員不足に伴う複数校合同チーム参加ガイドライン」に準ずる。

イ. 統廃合対象校による合同チーム

統廃合完了前の2年間に限り、合同チームによる大会参加を認める。

(6) 転校・転籍後6ヶ月未満（水泳は1年）のものは参加を認めない。（外国人留学生もこれに準ずる）

但し、一家転住などやむを得ない場合は、各都道府県高体連会長の認可があればこの限りでない。大会開始前のエントリー変更期限前に6ヶ月が経過し出場資格が発生した場合、団体競技種目や団体戦では、エントリー変更のルールがある場合は、そのルールに従って変更を認める。

(7) 出場する選手は、あらかじめ健康診断を受け、在学する学校長及び所属する高等学校体育連盟会長の承認を必要とする。

(8) 「脳震盪(のうしんとう)」について選手および指導者は下記事項を遵守すること。

① 大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。

② 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。なお、至急専門医（脳神経

外科)の精査を受けること。

③ 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。

④ 当該選手の指導者は、大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。

(9) 皮膚真菌症(トングランス感染症)については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において的確な治療を行うこと。もし選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。

(10) 参加資格の特例

① 上記(1)(2)に定める生徒以外で、当該競技要項により大会参加資格を満たすと判断され、県高等学校体育連盟が推薦した生徒について、全国高校総体開催基準要項の「大会参加資格の別途に定める規程」に従い大会参加を認める。

② 上記(3)の但し書きについては、学年の区分を設けない課程に在籍する生徒の出場は、同一競技3回限りとする。

*大会参加資格の別途に定める規定

(1) 学校教育法第72条、115条、124条及び134条の学校に在籍し、都道府県高等学校体育連盟の大会に参加を認められた生徒であること。

(2) 以下の条件を具備すること。

①大会資格を認める条件

ア (公財)全国高等学校体育連盟の目的を理解し尊重すること。

イ 参加を希望する特別支援学校、高等専門学校、専修学校及び各種学校にあつては、学齢、修業年齢ともに高等学校と一致していること。また、広域通信制連携校の生徒による混合は認めない。

ウ 各学校にあつては、都道府県高等学校体育連盟の予選会から出場が認められ、全国大会の出場条件が満たされていること。

エ 各学校にあつては、部活動が教育活動の一環として、日常継続的に責任ある顧問教員の指導のもとに適切に行われており、活動時間等が高等学校に比べて著しく均衡を失わず、運営が適切であること。

②大会参加に際し守るべき条件

ア 全国高等学校総合体育大会開催基準要項を遵守し、規則種目別大会申し合わせ事項等に従うとともに、大会の円滑な運営に協力すること。

イ 大会参加に際しては、責任ある学校の教員が引率するとともに、万一の事故の発生に備えて傷害保険に加入しておくなど、万全の事故対策を講じておくこと。

ウ 大会開催に要する経費については、応分の負担をすること。

7 参加制限

(1) 団体試合(男子・女子)

① 各県は男子4校、女子3校。ただし、開催地(富山県)は男子8校、女子4校とする。

② チームの人員は、次のとおりとする。*なお、男女とも補欠はいなくてもよい。

ア 男子は、監督1名・選手5名・補欠1名の計7名以内とする。なお、選手が3名もしくは4名の場合は、後ろ詰め(先鋒・次鋒、もしくは先鋒を空ける)とする。

イ 女子は、監督1名・選手3名・補欠1名の計5名以内とする。なお、選手が2名の場合は、後ろ詰め(先鋒を空ける)とする。

③ 外国人留学生のチームにおける人員は、男子・女子ともに1名以内とする。

④ 不参加チームのあるときは、開催地で補充する。

(2) 男子個人試合

① 体重区分は次の通りとする。

[60kg級(60kg以下の者)・66kg級(60kgを超え66kg以下の者)・73kg級(66kgを超え73kg以下の者)・81kg級(73kgを超え81kg以下の者)・90kg級(81kgを超え90kg以下の者)・100kg級(90kgを超え100kg以下の者)・100kg超級(100kgを超える者)]

② 各県の出場選手は、各階級8名とする。但し、各階級40名とするために不足する人数は、開催地で補充することができる。

③ 計量にパスしない者は出場できない。

④ 外国人留学生の参加人数の制限は設けない。

⑤ 選手は、団体試合と個人試合を兼ねてもよい。

(3) 女子個人試合

- ① 体重区分は次の通りとする。
〔48kg級（48kg以下の者）・52kg級（48kgを超え52kg以下の者）・57kg級（52kgを超え57kg以下の者）・63kg級（57kgを超え63kg以下の者）・70kg級（63kgを超え70kg以下の者）・78kg級（70kgを超え78kg以下の者）・78kg超級（78kgを超える者）〕
- ② 各県の出場選手は、各階級4名とする。但し、各階級20名とするために不足する人数は、開催地で補充することができる。
- ③ 計量にパスしない者は出場できない。
- ④ 外国人留学生の参加人数の制限は設けない。
- ⑤ 選手は、団体試合と個人試合を兼ねてもよい。

8 組合せ

- (1) 令和6年6月5日(水) 14:00～ 開催地(富山県)の責任において抽選により決定する。
- (2) 団体試合及び個人試合(男子・女子)の組合せでは、各県の団体試合優勝校および個人試合各階級優勝者をシードする。

9 選手変更と補欠選手の投入の順番について

参加申込者に変更が生じた場合は、所定の用紙に記入し、診断書等(※)と共に提出する。選手の補充を当該県の専門委員長より申し出をおこなう。

※「診断書等」とは医師の診断書または選手の所属校の校長による変更理由についての証明書などの公的であると認められる文章

(1) 〈団体試合〉

- ①参加申込み後の「選手変更」は男子・女子ともに1名を原則とする。但し、伝染病その他天災等による場合は、これを適用しない。
- ②新たに補充される選手は、先に申し込まれた「補欠選手の補充」とする。欠員の場所への投入は、先に登録されている補欠選手が優先する。投入による直接的なチームのオーダー順位の変更は認めない。

(2) 〈個人試合〉組合せ抽選後は、欠場する選手の場所に入る。

- (3) 選手変更の受付時間及び場所 6月14日(金) 12:30～13:20
アルビス小杉総合体育センター 正面入口 (受付)

10 計量

- (1) 日時・時間 6月14日(金) 12:40～13:30 (何回計量しても構わない)
- (2) 計量場所 アルビス小杉総合体育センター 〈男子〉アリーナ 〈女子〉女子更衣室
- (3) 計量時服装 〈男子〉原則として「上半身裸」、下は「短パン」とする。
〈女子〉原則として「上半身Tシャツ」、下は「短パン」とする。

11 参加申込

(1) 申込方法

- ① 所定の様式により各県専門委員長が一括して、電子データを大会事務局担当者(下記のメールアドレス)に送信すること。*紙媒体の申込については、各県専門委員長にて保管する。
- ② 各県高体連会長用の参加申込書については、専門委員長あてに郵送すること。

(2) 申込期日

- ① 電子データ 令和6年6月4日(火) 17:00までに送信すること。
- ② 参加申込書 令和5年6月14日(金) 専門委員長会議にて提出。

(3) 申込メール送信先

<メール送信先>	kiyama-yutaka@ed.pref.toyama.jp 富山県立富山工業高等学校 帰山 寛
----------	--

<書類送信先:委員長>	富山国際大学附属高等学校 橘川 幸治 〒930-0175 富山県富山市願海寺水口444 TEL 076-434-0577 FAX 076-434-1974
-------------	---

12 参加料

- (1) 団体試合（1チーム） 20,000円
- (2) 個人試合（1名） 2,000円
- (3) 参加料は、各県専門委員長がまとめ、所定の一覧表に記入の上、専門委員長会議時に納入すること。

13 表彰

- (1) 団体試合（男子・女子） 男子上位5位まで、女子3位までのチームに表彰状を授与する。
- (2) 個人試合（男子・女子） 男子各級上位5位まで、女子3位までの者に表彰状を授与する。
- (3) 前年度団体優勝校（男子・女子）にはレプリカを授与する。

14 諸会議

- (1) チーム受付・選手変更受付・宿泊受付・弁当受付
6月16日(金) 12:30～13:20 アルビス小杉総合体育センター 入口
- (2) 専門委員長会議 6月16日(金) 13:25～ アルビス小杉総合体育センター 会議室
- (3) 審判・監督会議 6月16日(金) 14:00～ アルビス小杉総合体育センター 会議室
- (4) 審判打ち合わせ 6月17日(土) 8:30～ アルビス小杉総合体育センター 会議室
6月18日(日) 8:30～ アルビス小杉総合体育センター 会議室

15 引率・監督

- (1) 引率責任者は、団体の場合は校長の認める当該校の職員とする。個人の場合は校長の認める学校の職員とする。
また、校長から引率を委嘱された「部活動指導員」（学校教育法施行規則第78条の2に示された者）も可とする。但し、「部活動指導員」に引率を委嘱する校長は、各県高体連会長に事前に届け出る。
- (2) 監督、コーチ等は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険（スポーツ安全保険等）に必ず加入することを条件とする。但し、各県における規定があり、引率・監督者がこの基準より限定された範囲内であればその規定に従うことを原則とする。
- (3) 大会・試合における監督・コーチ・引率者の責任と行為・言動について
 - ①監督・引率の責任
監督・引率者は、自身の選手が大会会場に入場してから退出するまでの間、選手の行動に責任を負わなければならない。
 - ②監督・コーチの言動や行為
監督は、試合が止まっている間（「待て」から「始め」）のみ、選手に対して指示を与えることができ
◎次の行為を禁止する。
ア 試合が進行している間に指示を出すことや試合中に立ち上がること。
イ 対戦相手や自身の選手を侮辱する言動や行為。
ウ 審判員の判定に対しての意見（抗議）や判定を求めるためのジェスチャーなど。
 - ③罰則規定
ア 1回目は審判員が合議の上、口頭により「警告」を与える。
イ 2回目は審判員が合議をし、大会委員長または審判長に報告の上、大会委員長または審判長の責任のもとに、その試合が終わるまで監督席から退場させる。
ウ 次の試合（対戦校）からは、監督席に戻ることができるが、その後も改善されない場合は、大会期間中を通して監督席への着席を認めない。
- (4) 監督・引率の服装 審判員に準じ、監督会議にも同様の服装で出席すること。

16 柔道衣について

- (1) 全日本柔道連盟柔道衣規格に合格した柔道衣（上衣、下穿）を使用すること
 - ◎「全日本柔道連盟公認の柔道衣（平成27年度新規定）」を着用する
 - ①IJF 認証ラベルが「赤柀」または全柔連認証番号タグの数字（JU0000）が「赤」のもの。
 - ②「帯」については平成26年度現在の規定のもの（IJF 認証ラベルは「青柀」、全柔連認証番号タグの数字（JU0000）が「黒」）も使用可。（ただし、白帯については認証番号の有無は問わない）
- (2) 背部に下記の要領でゼッケンを各自で縫い付けること
 - ①布地は白色（晒太綾）で、サイズは横30～35cm、縦25～30cm
 - ②苗字を上部2/3、所属を下部1/3にゴシック又は楷書で男子は黒字、女子は朱字で記載する
 - ③縫い付けの場所は、後ろ襟から5～10cm下部とし、対角線にも強い糸で縫い付ける

17 審判員について

- (1) 各県9名、開催県12名、計48名で編成する。
- (2) 団体出場校の監督を兼ねる場合は各県男子チーム2名、女子チーム1名以内とし、出場チームの審判員はその試合会場に割り当てる。
- (3) 服装は、半袖シャツとし、ネクタイは着用しない。エンブレムはご準備下さい。
- (4) 審判会議へは審判服で出席する。
- (5) 開会式・閉会式に必ず出席する。

18 練習会場

アルビス小杉総合体育センターにて、下記の時間帯で使用できる。但し、練習試合は禁止する。

6月14日(金) 12:00～14:30 〈場所〉アルビス小杉総合体育センターアリーナ (試合場)
15日(土) 8:00～ 8:40 〈場所〉アルビス小杉総合体育センターアリーナ (試合場)
16日(日) 8:00～ 8:45 〈場所〉アルビス小杉総合体育センターアリーナ (試合場)

*なお、大会運営の関係で、使用できない時間帯もある。

19 宿泊・弁当 (詳細は、別紙宿泊要項による)

- (1) 宿泊・弁当等料金 (宿泊費・弁当代金は、学校単位で精算すること。)

A 宿泊料金 (1) 宿泊料金・・・1人1泊2食(朝・夕) A:11,000円(税込み)
1人1泊朝食(朝のみ) B:9,000円(税込み)
(食事代内訳(税込) 朝食500円 夕食2,000円)

B 昼弁当代金 1食 900円(税込・お茶付き)

- (2) 担当業者(宿泊等申込先)

名鉄観光サービス株式会社 富山支店
〒930-0004 富山県富山市桜橋通り1-18 (北日本桜橋ビル5階)
TEL 076-431-8056 FAX 076-431-2056
担当 滝川恵照 営業時間 平日9:30～17:30 土日祝休

20 連絡事項

- (1) 競技中の疾病・傷害等の応急処置は主催者側で行うが、その後の責任は負わない。なお、参加者は「健康保険証」を持参すること。
- (2) プログラムの無償配付は、参加選手・監督に1部とする。
- (3) 選手は必ず当該校の引率責任者に引率され、引率責任者は選手ならびにそれに準ずる生徒の全ての行動に対して責任を負うものとする。
- (4) その他の必要事項は、専門委員長会議・審判監督会議で決定する。

*全国高体連申し合わせ事項

- (1) 直接的な「反則負け」となった試合者に対する処置は基本的にはルールどおりとするが、いわゆるダイビングによる「直接的反則負け」については、その後の一連の試合に出場できない。但し、団体試合と個人試合は一連の試合とは考えない。
- (2) 柔道衣(上衣・下穿)について…全国高体連主催大会(全国総体・全国高校選手権)において、全日本柔道連盟公認の柔道衣(平成27年度新規定による)を着用することになります。ついては、当大会も上位大会に準じて指定します。IJF認証ラベルは「赤枠」または全柔連認証番号タグの数字(JU0000)が「赤」のもの。ただし「帯」については、IJF認証ラベルが「青枠」、全柔連認証番号タグの数字(JU0000)が「黒」も使用可能です。

第65回北信越高等学校柔道大会事務局

<委員長> 富山国際大学附属高等学校 橘川 幸治
〒930-0175 富山県富山市願海寺水口444
TEL 076-434-0577 FAX 076-434-1974
<大会担当> 富山県立富山工業高等学校 梶山 寛
〒930-0887 富山県富山市五福2238
TEL 076-441-1971

